

じゃくし 弱視の方を対象とした

りんしょうけんきゅう 臨床研究に参加してみませんか

じゃくし 弱視とは？

「視力の発達が障害されておきた、視力が低い状態」のことで、めがねをかけても視力が十分でない場合をさします。

この研究について

この研究では、ゴーグルを頭に付けて、バーチャル・リアリティ（VR）ゲームによる治療（「ダイコフティクトレーニング」という弱視に対する新しい治療法）を受けていただきます。
※ご自宅で1日1回、1回20～30分、週5回の実施。



この研究に参加いただける方

- 不同視弱視と診断された方
- 5歳から15歳の方

他にも条件がありますので、詳しくは担当の先生にご相談ください。

研究に参加する期間 16週間（来院回数：5～6回）
研究を実施する病院 大阪大学医学部附属病院
住所：大阪府吹田市山田丘2-15



問い合わせ先
大阪大学医学部附属病院
眼科 弱視斜視外来
06-6879-5111（代）

作成日：2024年1月30日

「弱視に対するダイコプティックトレーニングの研究」へのご協力をお願い

当院では VR（バーチャル・リアリティ）※を用いた新しい治療法による、不同視弱視を対象とした特定臨床研究を実施しています。本研究の対象者に該当する可能性のある方で、本研究にご興味のある方は、下記の問い合わせ先にお問い合わせください。

※コンピューターによって創り出された仮想的な空間を、現実であるかのように疑似体験できる仕組みのこと。

1. 研究の対象

不同視弱視の方

【参加していただける条件】

- 年齢が5歳以上、15歳以下
- 不同視弱視と診断されている
- 弱視眼の最高矯正視力が0.1以上かつ0.5以下
- 健常眼の最高矯正視力が0.7以上
- 眼鏡矯正を4か月以上実施しても、視力が十分に改善しない
- VRゴーグルを装着して本機器を適切に使用することができる
- 参加に関して代諾者から同意が得られる

【参加していただけない条件】

- 同意取得日から過去2週間以内にアトロピン治療を実施した
- 斜視手術以外の眼科手術歴がある
- 屈折異常や斜位以外の弱視をきたす眼疾患を有する
- 恒常性の斜視を有する
- 精神発達障害を有する
- 1年以内に眼科手術を受けた
- 聴覚障害を有する
- 瞳孔間距離が5.0 cm未満、7.7 cmを超える
- 他の介入研究に参加している
- 頭の怪我、めまい、前庭障害（脳の前庭と呼ばれる平衡感覚をつかさどる領域における障害）、バランス障害、頭痛、または光過敏性発作（光刺激に対する異常反応）のリスクがある
- 研究責任医師や研究分担医師が参加頂けないと判断される

2. 研究目的・方法

目的 弱視の方に対する新たな治療法として、健眼と弱視眼のディスプレイそれぞれに異なる視覚刺激を提示する方法、すなわちダイコプティックトレーニングが提示されています。

ダイコプティックトレーニングは比較的短時間（数十分）の使用にて不同視弱視患者さんの視力及び立

体視を改善すると考えられています。しかし、日本の患者さんに対する有効性及び安全性に関する試験は実施されていないため本研究で検討することを目的とします。

方法 本研究への参加の同意を頂き、適格となった方に、ご自宅で1日20～30分間、週5日、16週間、ダイコプティックトレーニングを行って頂きます。

登録予定期間：～2024年9月30日まで

3. お問い合わせ・連絡先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。

大阪大学大学院医学系研究科・視覚機能形成学寄附講座 ・ 森本 壮

連絡先：〒565-0871 大阪府吹田市山田丘2-2

電話番号 06 6879 3456

なお、研究の詳細につきましては、下記 URL の jRCT（臨床研究等提出・公開システム）にも公開しております。（臨床研究実施計画番号：jRCTs052230073）

<https://jrct.niph.go.jp/latest-detail/jRCTs052230073>

【研究名称】弱視に対するダイコプティックトレーニングの有効性及び安全性に関する検討